

[学会報告]

青少年の自殺予防

—— 藍野医療フォーラム 2008「青少年の自殺予防を考える」を開催して ——

足利 学*, 飯田 英晴*, 岸田 秀樹*
江副 智子**, 柴田 真理子**

2008年9月14日(日), 茨木市民会館大ホールにおいて, 学校法人藍野学院・医療法人恒昭会の主催で藍野医療フォーラム2008「青少年の自殺予防を考える」を開催しました。この日は「自殺予防週間(9月10日~16日)」でもあり, 医療・福祉関係者や教育関係者など幅広い分野から256名の方々にお集まりいただきました。

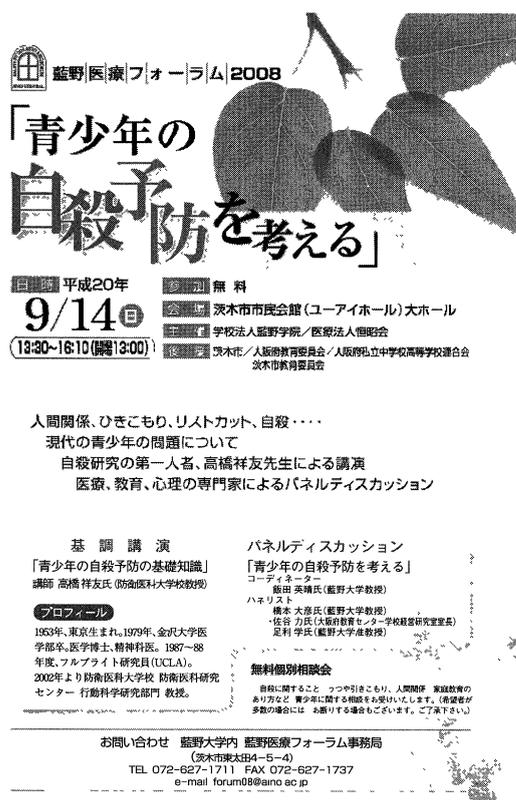
1. はじめに

さて, わが国では1998年に自殺者数が3万人台に急増して以来, 今日まで減少することがない状況が続いており社会問題になっています。自殺対策基本法も制定されましたが, 依然として自殺問題や自殺予防に関する関心は浸透しているとは言い難く, むしろタブー視する傾向があります。また, 青少年をとりまく社会の状況は, めまぐるしく変化しています。このような中で, 一部の青少年は人間関係がうまくもてずに, うつ, 引きこもり, 不登校, リストカット, 自殺に至る場合もみられるようになってきました。本フォーラムを開催することによって, 多くの人に関心を持ってもらうこと, 自殺を取り巻く現状を知ってもらう機会になるようにと私たちは考えています。

2. 青少年の自殺予防を考える

—— 藍野医療フォーラム 2008 ——

本フォーラムは, 基調講演に先立ち, 小山昭夫(藍野学院学院長)による開会の挨拶, 八木章治氏(茨木



藍野医療フォーラム2008
「青少年の自殺予防を考える」

日時 平成20年 9/14(日) 13:30~16:10(開場13:00)
 会場 茨木市民会館(コアイホール)大ホール
 主催 学校法人藍野学院/医療法人恒昭会
 後援 茨木市/人脈教育委員会/人脈府立中学校高等学校連合会
 茨木市教育委員会

人間関係、ひきこもり、リストカット、自殺……
 現代の青少年の問題について
 自殺研究の第一人者、高橋祥友先生による講演
 医療、教育、心理の専門家によるパネルディスカッション

基調講演 「青少年の自殺予防の基礎知識」 講師 高橋祥友氏(防衛医科大学校教授)	パネルディスカッション 「青少年の自殺予防を考える」 コーディネーター 飯田 英晴氏(藍野大学教授) ハネリスト 橋本 大彦氏(藍野大学教授) 佐谷 力氏(人脈教育センター学校経営研究室室長) 足科学氏(藍野大学准教授)
--	---

プロフィール
 1963年、東京生まれ。1979年、金沢大学医学部卒。医学博士、精神科医。1987-88年度、フルブライト研究員(UCLA)。2002年より防衛医科大学校 防衛医科研究センター 行動科学部門 教授。

無料個別相談会
 自殺に悩むこと、うつや引きこもり、人間関係、家庭教育のあり方など、青少年に関する相談を承ります。(相談者が多数の場合は、お断りする場合がございます。ご了承下さい。)

お問い合わせ 藍野大学内 藍野医療フォーラム事務局
 (茨木市東大田4-5-4)
 TEL 072-627-1711 FAX 072-627-1737
 e-mail forum08@aino.ac.jp

藍野医療フォーラム 2008
「青少年の自殺予防を考える」ポスター

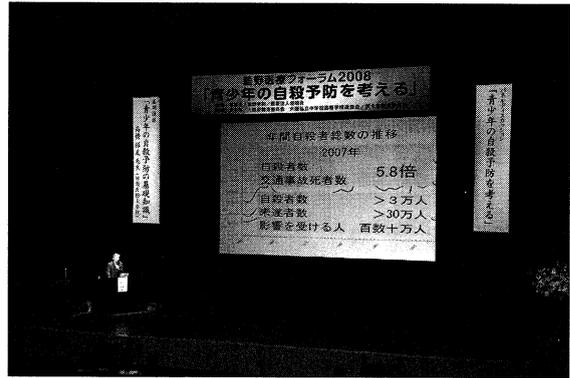
* 藍野大学

** 藍野学院短期大学

市教育長)に来賓のご挨拶をお願いしました。

最初の基調講演では、自殺研究の第一人者である防衛医科大学校教授の高橋祥友氏をお迎えし、「青少年の自殺予防の基礎知識」と題して、日本の自殺の現状、青少年の自殺の特徴や背景、自殺を打ちあけられた時の対応など、自殺予防に関してさまざまな視点からご講義いただきました。

後半のパネルディスカッションでは、コーディネーターの飯田英晴(藍野大学)、パネラーの佐谷力氏(大阪府教育センター)、橋本大彦(藍野大学)、足利学(藍野大学)が「青少年の自殺予防を考える」と題して、各人のこれまでの臨床現場での事例を紹介しました。教師、医師、臨床心理士のそれぞれの立場から、青少年の自殺予防に向けた医療や教育のあり方について活発な議論がなされ、1時間余りにわたるフォーラムを閉会しました。



基調講演



パネルディスカッション



フォーラムの受付付近